

第六回分裂酵母国際会議への参加

派遣国名: アメリカ合衆国

派遣期間: 2011.6.24~2011.7.1

学会名: The 6th International Fission Yeast Meeting

2011年6月25日から30日までアメリカ・ボストンにおいて開催された第六回分裂酵母国際会議(The 6th International Fission Yeast Meeting “pombe2011”)へ参加し、発表を行ってきました。本国際会議は隔年で開催されている分裂酵母を宿主とした研究を行っている研究者の集まりで、今回はハーバード大学医学部のNick Rindがオーガナイザーとなり開催されました。モデル生物である分裂酵母の研究は日本においても活発に行われており、アメリカで開催された国際会議にも関わらず非常に多くの日本人が参加している印象を受けました。私は分裂酵母の糖類の代謝と細胞同士の接着(凝集)に関する研究を行っており、レクチン様のタンパク質が他の細胞の糖鎖中のガラクトース鎖へ結合することによって細胞同士が凝集することを見出し、報告しました(Identification of Gsf2 : Gene Essential for Nonsexual Flocculation and Hyphal Growth in *Schizosaccharomyces pombe*)。多くの参加者から質問・意見を頂き、本研究に関する非常に有意義な議論を交わすことができました。また、昨年論文発表した別のテーマに関する研究に対する質問も多くあり、少し戸惑いましたが、論文が認知されていることわかりよかったです。驚いたことに、これまで凝集に関する研究を行っていなかった他国のグループが分裂酵母の凝集に関する研究をスタートさせており、アプローチの仕方は異なるものの、我々の研究と競合していることがわかりました。今後の展開が気になるところです。

会議全体を通して多くの著名な先生方による講演、多くの研究者によるまだ論文発表されていない最新の知見を聞く事ができ、非常に良い刺激を受けることができたと同時に、同分野の発表を聞き「尻を叩かれた」会議となりました。本国際会議に参加するにあたりご支援を頂いた、JSPS 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。